

＜プロフェッショナル育成コース＞



SFC
KEIO UNIVERSITY

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科
社会イノベーターコース

ガイダンス

2025年度

社会の問題解決を目指す、多様な主体との協働を実現し、 効果的なインセンティブ設計のできる 高度なマネジメント能力をもった人材（＝社会イノベータ）の育成

様々な場面において、**行政にも企業にも対処が難しい社会課題が顕在化**し、人間のwell beingを向上させる、持続可能であり、**実効性の高い社会システムの設計や実践モデルの構築**が喫緊の課題となっています。

しかし、このような社会課題の解決には「個益（＝個人や特定の組織の利益）」と「公益」が相反するものと捉えるアプローチでは隘路にはまってしまう。

そこで、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科では、社会イノベータを「**事業センスと公益センスを兼ね備え、持続性のある、かつ、生産性の高い社会を実現する人**」と定義し、多様な主体との協働を実現し、効果的なインセンティブ設計のできる高度なマネジメント能力をもった人材を育成する**プロフェッショナル育成コース**として「社会イノベータコース」を設置しています。

社会イノベータコース（SIコース）7つの特色

1

ビジネス・環境・社会起業を融合する知識・技能の学習とプロジェクト実践の体系的なカリキュラム

2

研究プロジェクト実践によるアントレプレナーシップの醸成（地域おこし研究員プログラムなど）

3

「修士（政策・メディア）」の学位に加えて、サティフィケート「社会イノベータ（Social Innovator）」を授与

4

コース指定の必修科目・選択科目は1年間での履修も可能
※ 政策・メディア研究科は、基本的には2年間の在学期間が必要です。

5

「都心サテライト教室」と全国の「SFCサテライト拠点（地域おこし研究員の活動拠点）」を中心とした学習も可能
※ コース指定の必修科目・選択科目（一部）のみが対象です。

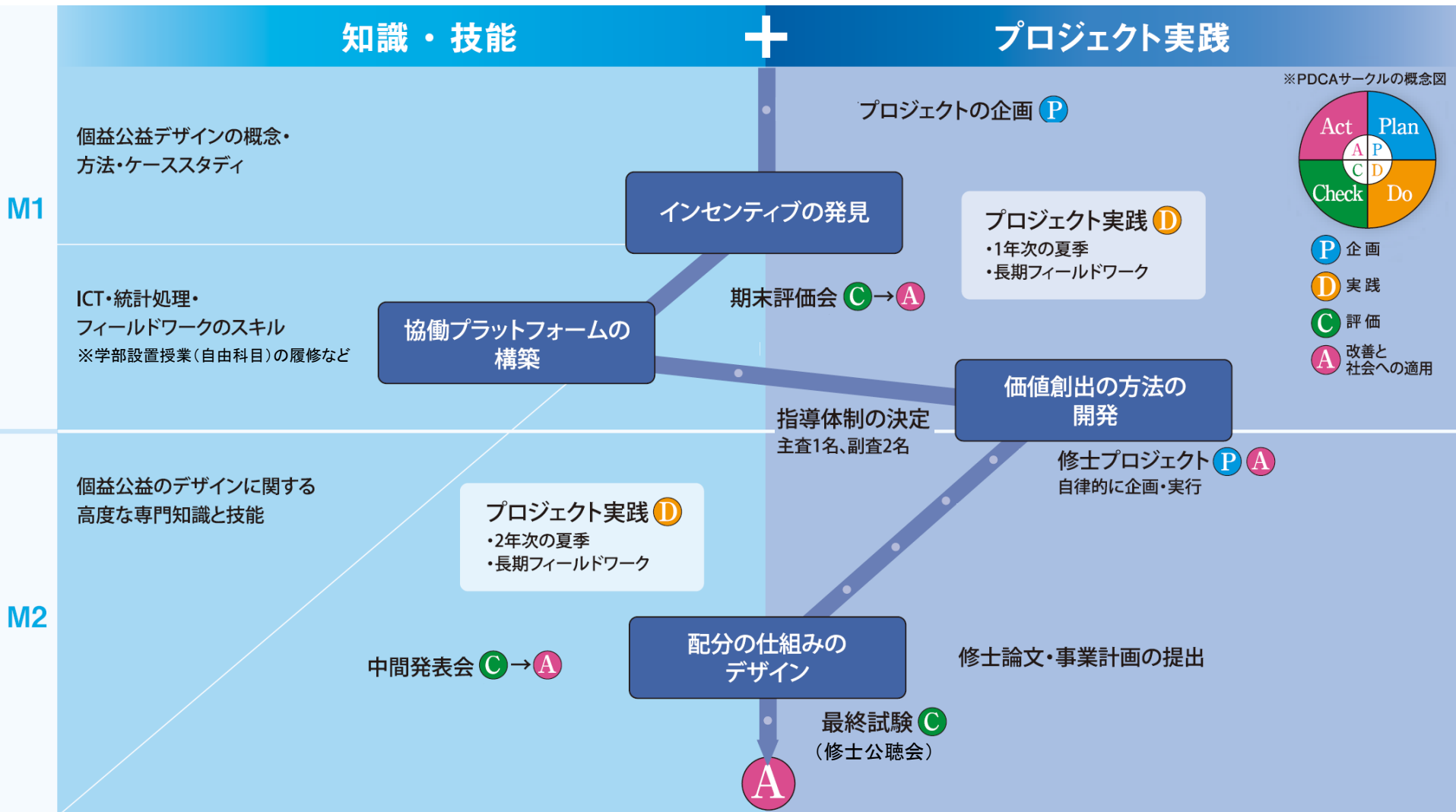
6

総合政策学部・環境情報学部設置されたビジネス・環境・社会起業などに関する科目を履修可能
※ 学部設置科目は自由科目としての履修となり、大学院の修了単位としてのカウントは出来ません。

7

休校期間中の海外や国内でのフィールド研究を推奨・支援

SIコースの学習モデル



<各学期のポイント>

1学期目「個益公益のインセンティブの発見」

【Plan】

① 実践活動

自らの“プロジェクト”へのアプローチ

- ・ 気になるテーマ、不動点の認識
- ・ これから深めるべき領域の確認
- ・ 個人の学習計画にも繋げる
- ・ プロジェクト科目&修士研究会での活動・助言

② コースワーク（概念構築、基盤構築）

<春学期入学者>

個益・公益のデザイン ※必修（概念構築、プロジェクトの企画支援など）

ソーシャルマーケティング

パブリックマネジメント

社会起業論

ソーシャルファイナンス

ソーシャルビジネスの商品開発とプロモーション

先端研究（ケースメソッド）

経営戦略特論

<秋学期入学者>

社会イノベーションとデザイン

社会起業とイノベーション

ヘルスコミュニケーション

休校期間（夏期・春期）「プロジェクト実践」

【Do】 フィールドワーク

- ・前学期に企画を立てる
- ・それぞれが集中して行うべきことを：実地、調査活動、資料収集…
- ・プロジェクトを育て続ける
- ・「**フィールドワークA/B/C/D**(各2単位)」に登録（希望者&承認された場合）
大学指定の申請期間までに、指導教員を依頼したい教員にアポを取って、指導を受けておく

2学期目「個益公益の協働プラットフォームのデザイン」

【Check→Action→Plan】

① コースワーク（実践、演習）

＜春学期入学者＞社会イノベーションとデザイン、社会起業とイノベーション、ヘルスコミュニケーション

＜秋学期入学者＞**個益・公益のデザイン**

ソーシャルマーケティング、パブリックマネジメント、社会起業論
ソーシャルファイナンス、ソーシャルビジネスの商品開発とプロモーション、
先端研究（ケースメソッド）、経営戦略特論

② プロジェクトをバージョンアップし続ける

- ・プロジェクト科目&修士研究会での活動・助言

③ 指導体制の決定：主査1名・副査2名

3学期目 「協働による価値創出の方法の開発と実践」

【P→D→C→A】

- ① 修士プロジェクトの推進
 - 修士研究を自律的に実施
 - プロジェクト科目&修士研究会での活動・助言
- ② 中間発表（研究科全体としてのチェック）

4学期目 「個益公益の評価と配分の仕組みのデザイン」

【C→A】

- ① 修士プロジェクトの体系化
 - プロジェクト科目&修士研究会での活動・助言
- ② 修士論文・修士活動報告の提出
- ③ 最終試験（修士公聴会）

「社会イノベータコース」の履修

- サートیفিকেート修得要件

SI コースの各科目区分（下記の5区分）の最低単位数を満たし、修士（政策・メディア）の学位を取得すること。

1. 必修科目：4単位
2. 選択科目：10単位以上
3. プロジェクト科目：每学期1単位以上 *1
4. 研究指導科目：每学期2単位 *2
5. 修士プロジェクト：2単位

*1 指定のアカデミックプロジェクトから每学期選択して履修。
（每学期2科目履修することも可能です）

*2 SIコース担当者が開講する「修士研究会」から每学期選択して履修。

- SIコースの履修モデル（⇒次頁以降参照）
- 研究メンター活動
 - オフィスアワー制度の活用：主体的な相談を
 - プロジェクト科目&修士研究会での助言・指導

社会イノベータコース関連科目（開講場所・時間等はすべて予定）

■ 必修科目：4単位

【春・前半&後半】 **個益・公益のデザイン**（4単位）（水6・7限）@オンライン

※ SIコースの根幹となるフレームワークの学習とトレーニング、プロジェクトの企画支援など

■ 選択科目：10単位以上

【春・前半】 **ソーシャルマーケティング**（月1・2限）@SFC ※大学院・学部併設科目

【春・前半】 **パブリックマネジメント**（月3・4限）@オンライン ※大学院・学部併設科目

【春・前半】 **社会起業論**（金2・3限）@SFC ※大学院・学部併設科目

【春・前半】 **経営戦略特論**（水1・2限）@SFC ※英語開講

【春・前半&後半】 **先端研究（ケースメソッド）**（金4限）@オンライン（※ 中間発表・最終発表は対面（必須））

【春・後半】 **ソーシャルファイナンス**（金1・2限）@SFC ※大学院・学部併設科目

【春・後半】 **ソーシャルビジネスの商品開発とプロモーション**（火6・7限）@オンライン

【秋・前半】 **社会イノベーションとデザイン**（火6・7限）@都心サテライト三田（*1）

【秋・前半】 **ヘルスコミュニケーション**（火1・2限）@オンライン

【秋・後半】 **社会起業とイノベーション**（木1・2限）@オンライン

【休校期間(夏・春)】 **フィールドワークA/B/C/D** ※ 6月・11月申請→承認→休校期間に実施→翌学期に履修申告

■ プロジェクト科目：每学期1単位以上（每学期選択必修）

【每学期】 **ネットワークコミュニティ1/2**（各1単位）（木5限～）

【每学期】 **プラットフォームとイノベーション**（1単位）（月1・2限）

【每学期】 **ヒューマンサービスとコミュニティ**（1単位）（月1・2限）

■ 研究指導科目：每学期2単位（每学期必修）

【每学期】 **修士研究会** ※ SIコース担当教員による開講のみ

■ 修士プロジェクト：2単位（必修）

【2年春】 **修士論文1 or 修士活動報告1**（1単位）

【2年秋】 **修士論文2 or 修士活動報告2**（1単位）

※ 単位数の記載のないものは2単位の授業です。

開講場所・時間・受講方法などは全て予定です。詳細は各授業のシラバスを確認して下さい。

「大学院・学部併設科目」は履修者選抜があります。早めにシラバスを確認の上、指定の手続きをして下さい。

(*1) 協定に基づく「地域おこし研究員プログラム」などでの調整が必要な学生は玉村(tama@sfc.kei.ac.jp)までご相談下さい。

社会イノベータコースの履修モデル（例）

		必修科目 4単位	選択科目 10単位以上	プロジェクト科目 毎学期1単位以上	研究指導 科目 毎学期2単位	修士 プロジェクト 2単位
1年春	前半	個益・公益 のデザイン (4)	ソーシャルマーケティング(2) パブリックマネジメント(2) 社会起業論(2) 経営戦略特論(2)	先端研究 (ケース メソッド) (2)	ネットワークコミュニティ1(1) ネットワークコミュニティ2(1) プラットフォームとイノベーション(1) ヒューマンサービスとコミュニティ(1)	修士研究会(2)
	後半		ソーシャルファイナンス(2) ソーシャルビジネスの 商品開発とプロモーション(2)			
1年秋	前半		社会イノベーションとデザイン(2) ヘルスコミュニケーション(2)		ネットワークコミュニティ1(1) ネットワークコミュニティ2(1) プラットフォームとイノベーション(1) ヒューマンサービスとコミュニティ(1)	修士研究会(2)
	後半		社会起業とイノベーション(2)			
2年春					ネットワークコミュニティ1(1) ネットワークコミュニティ2(1) プラットフォームとイノベーション(1) ヒューマンサービスとコミュニティ(1)	修士研究会(2) 修士論文1(1) 修士活動報告1(1)
2年秋					ネットワークコミュニティ1(1) ネットワークコミュニティ2(1) プラットフォームとイノベーション(1) ヒューマンサービスとコミュニティ(1)	修士研究会(2) 修士論文2(1) 修士活動報告2(1)
休校期間 (夏休み 春休み)			フィールドワークA/B/C/D(各2)			

※科目名の後にある○は単位数です

1年時の時間割（例）

1年生 春学期・前半

	月	火	水	木	金
1	【選択】 ソーシャルマーケティング				
2	【每学期 選択必修】 プラットフォームとイノベーション （※開講日は別途確認を）		【選択】 経営戦略特論		
3	【每学期 選択必修】 ヒューマンサービスとコミュニティ （※開講日は別途確認を）				【選択】 社会起業論
4	【選択】 パブリックマネジメント				【選択】 先端研究 （ケースメソッド）
5					
6				【每学期 選択必修】 ネットワーク コミュニティ1	
7			【必修】 個益・公益の デザイン	ネットワーク コミュニティ2	

【每学期 必修】 修士研究会

（※開講方法・時限等は各担当教員に確認を）

※ 上記の開講時間などは全て予定です。詳細は各授業のシラバスを確認して下さい。

※ 上記以外にも、各自の判断で必要な科目を履修すること

1年時の時間割（例）

1年生 春学期・後半

	月	火	水	木	金
1	【毎学期 選択必修】 プラットフォームとイノベーション (※開講日は別途確認を)				【選択】 ソーシャル ファイナンス
2	【毎学期 選択必修】 ヒューマンサービスとコミュニティ (※開講日は別途確認を)				
3					
4					【選択】 先端研究 (ケースメソッド) (※ 春学期前半からの続き)
5				【毎学期 選択必修】 ネットワーク コミュニティ1 ネットワーク コミュニティ2	
6		【選択】 ソーシャルビジネスの商品開発と プロモーション	【必修】 個益・公益 のデザイン (※ 春学期前半からの続き)		
7					

【毎学期 必修】 修士研究会

（※開講方法・時限等は各担当教員に確認を）

※ 上記の開講時間などは全て予定です。詳細は各授業のシラバスを確認して下さい。

※ 上記以外にも、各自の判断で必要な科目を履修すること

1年時の時間割（例）

1年生 秋学期・前半

	月	火	水	木	金
1	【毎学期 選択必修】 プラットフォームとイノベーション （※開講日は別途確認を）	【選択】 ヘルス コミュニケーション			
2	【毎学期 選択必修】 ヒューマンサービスとコミュニティ （※開講日は別途確認を）				
3					
4					
5				【毎学期 選択必修】 ネットワーク コミュニティ1 ネットワークコミュニティ2	
6		【選択】 社会イノベーション とデザイン			
7					

【毎学期 必修】 修士研究会

（※開講方法・時限等は各担当教員に確認を）

※ 上記の開講時間などは全て予定です。詳細は各授業のシラバスを確認して下さい。

※ 上記以外にも、各自の判断で必要な科目を履修すること

1年時の時間割（例）

1年生 秋学期・後半

	月	火	水	木	金
1	【毎学期 選択必修】 プラットフォームとイノベーション （※開講日は別途確認を）			【選択】 社会起業と イノベーション	
2					
3					
4					
5				【毎学期 選択必修】 ネットワーク コミュニティ1 ネットワークコミュニティ2	
6					
7					

【毎学期 必修】 修士研究会

（※開講方法・時限等は各担当教員に確認を）

※ 上記の開講時間などは全て予定です。詳細は各授業のシラバスを確認して下さい。

※ 上記以外にも、各自の判断で必要な科目を履修すること



SFCと地域連携による「未来共創プログラム」

地域おこし研究員

「地域おこし研究員」は、多様な主体との協働を実現し、高度なマネジメント能力をもって社会の問題解決を目指すプロフェッショナル（＝社会イノベータ）を育成する慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科「社会イノベータコース」が、全国各地の地域と連携して推進するプログラムです。

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）と連携する自治体・組織が、地域の現場での実践的な研究開発を行う SFC の大学院生等を「地域おこし研究員」として任用や依頼をし、SFC からの遠隔と対面での研究指導・支援を通じて、地方創生の実学の推進と人材育成に取り組みます。



「地域おこし研究員」は、全国各地の地域とSFC（社会イノベータコース、社会イノベーション・ラボ）が連携して推進するプログラムです。

地域の現場での実践的な研究開発を行うSFCの大学院生や大学院進学希望者等を、SFCと連携する自治体・組織が「地域おこし研究員」として任用します。SFCからの遠隔と対面での研究指導・支援を通じて地方創生の実学を推進します。

「地域おこし研究員」は、SFCの担当教員からの助言や、自治体・組織との調整のもと、地域に新機軸を実現するテーマを設定して活動します。地域が抱える課題を、多様な主体の協働や連携を実現することで、共に解決することを目指します。

「地域おこし研究員」7つのポイント

1

全国の自治体・組織にて、報償費等が支払われる立場で任用や依頼、任命されます

2

大学院入学と同時に「地域おこし研究員」として活動することが可能です

3

地域における実践的な研究活動に従事することが可能です

4

SFC「社会イノベータコース」にて、指導・支援を受けながら活動することが可能です

5

SFC宿泊施設や各地の拠点等で、全国で活動する研究員が集まる定期ミーティングを開催します

6

遠隔ミーティングで、地域にしながら指導・支援を受けることが可能です

7

「慶應義塾大学SFC研究所（社会イノベーション・ラボ）サテライト拠点」を連携地域に設置します

- 慶應SFC、長島町（鹿児島県）神石高原町（広島県）三条市（新潟県）釜石市（岩手県）鹿児島相互信用金庫（鹿児島県）大山町（鳥取県）能代市（秋田県）大崎町（鹿児島県）東川町（北海道）花巻市（岩手県）邑南町（島根県）杵田市（長崎県）智頭町（鳥取県）大刀洗町（福岡県）富士吉田市（山梨県）など、が共同で提唱・推進。
- 慶應SFCと連携する自治体・組織にて、協働体制を構築。
 - SFCとの調整のもと、連携する自治体・組織にて、総務省「**地域おこし協力隊※**」や「**地域活性化起業人**」の制度、**自治体・組織の独自制度・職員派遣等**を活用し、受け入れと協働体制を準備。 ※ 例：報償費320万円/年・活動費200万円/年、最長3年間など。自治体によって、報償費や任用方法・条件等は異なります。
 - **地域の現場で実践的な研究活動**を行う**SFCの大学院生・進学希望者等**を対象に**自治体・組織の選考**により任用。 ※ **大学院合否と協力隊等の任用は連動しません**。
 - 地域おこし協力隊の制度を利用する場合、自治体が設定する条件※のもとで、自治体が募集・任用。 ※ 例：当該地域への在住、1年以上3年以内の活動従事など。
 - 修士課程(2年間)修了後に、地域おこし協力隊等の任期(例：最長3年間)が残っている場合、継続することも可能。 ※ 自治体の制度や判断によります。
 - 地域おこし協力隊等の**起業支援制度**を提供する地域もあります。 ※ 例：任期の最終年度や翌年度に100万円まで利用可能など。自治体の制度と判断によります。
- 「**大学(大学院生という研究者)**」と「**地域(地域おこし協力隊/地域おこし研究員等)**」での2つの立場を持つことになります。それぞれの立場に期待されることを念頭に、相乗効果がある研究開発に挑戦します。 ※ それぞれの立場になるための合格・任用が必要です。

※ 制度の設計・運用は、より効果的な活動が出来るよう、慶應SFCの担当教員と自治体・組織との調整を行います。

- 慶應SFCは、大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコースにて指導・支援体制を構築します。
 - 「地域おこし研究員」は、社会イノベータコース指定の科目にて、**対面・遠隔・集中等の研究指導・支援**を受けながら、現場での実践的な研究活動を行います。
 - 条件を満たした場合、修士号に加えて、**サティフィケート(コース修了証)「社会イノベータ」**を授与します。
- 地域おこし研究員は、その活動費を用いて、**慶應SFCや都心サテライト等での研究ミーティングや授業等に定期的に参加**するものとします。
 - 全国各地で活動する地域おこし研究員などが、SFCや連携拠点などに月1回程度集合し、研究ミーティングを開催する予定です。（参考：[SFC未来創造塾](#)）
 - 大学院の授業・活動（**1年生春学期(4-7月)の集中学習@SFC**や、指定授業の**遠隔受講等**）、**インターネットを介した遠隔ミーティング**（大学院プロジェクトへの参加）、対面・遠隔による個別の助言・指導などを通じて、**各自のプロジェクトの開発や推進**に取り組みます。
 - Web会議システム等を用いて、グループワークでの授業課題などにも取り組むことができます。
- 自治体等では、地域おこし研究員による**実践活動や遠隔ミーティング・受講等の拠点となる協働スペース**を準備して頂く予定です。
※ 地域の特性やテーマによって提供される施設などは異なります。

※ 想定テーマ以外にも、自治体等やSFC担当教員と相談の上、テーマの設定が可能です。

「バスケットの街づくり」などの地域資源を活用したまちを元気にする研究開発

⑦能代市
(秋田県)

⑨東川町
(北海道)

「東川スタイル」を基盤とした研究開発

⑩花巻市
(岩手県)

花巻市地域おこし研究所を拠点に「地域おこしプロジェクト」の研究開発

④釜石市
(岩手県)

「オープンシティ釜石」と「社会イノベーション」を加速させる研究開発

③三条市
(新潟県)

スポーツまちづくり等

⑮富士吉田市
(山梨県)

「世界文化遺産・富士山」の裾野に広がる地域を基盤とした研究開発

⑬智頭町
(鳥取県)

「おせかい奨学パッケージ」「森林資源の活用」等

⑥大山町
(鳥取県)

超住民参加型の大山町営テレビ「大山チャンネル」の活用「こどもと楽しいまちづくり」等

⑪邑南町
(島根県)

「A級グルメのまち」のチカラを活かした社会システムの研究開発

⑫吉崎市
(長崎県)

吉崎なみらい研究所での未来の島の姿をつくる研究開発

⑭大刀洗町
(福岡県)

対話が生ま出す「暮らしの豊かさ」や「創造性」を共に実践

②神石高原町
(広島県)

「最先端技術の活用・実証」「企業誘致プロジェクト」など

⑧大崎町
(鹿児島県)

「リサイクル率日本一」のチカラを活かした「リサイクル未来創生プロジェクト」の研究開発

⑤鹿児島相互信用金庫(鹿児島県各地)

実践型研究所「そうしん地域おこし研究所」を拠点に「地域おこし×CSV」の研究開発

①長島町
(鹿児島県)

「地域商社プロジェクト」「食×地方創生」等

●【全国】
「高校魅力化プロジェクト(担当: 藤岡)」の調整を通じて、展開地域を設定

「地域おこし研究員」は大学院入学後でも活動可能です。

詳細は

si-researcher@sfc.keio.ac.jp

にお問い合わせ下さい。

(参考)

地域おこし研究員 Webサイト

<https://si.sfc.keio.ac.jp/si-researcher/>